



節分



2月2日は節分にちなんだ献立でした。お昼は、ひじきご飯・すまし汁・鰯の胡麻味噌煮・ごぼうとコーンのサラダ・節分豆。おやつは、鬼さんスイーツと牛乳でした。様々なお顔の鬼さんができました。



寒い冬がようやく過ぎようとしています。暖かい日が増え、梅の花が咲き、春はもうすぐそこまでやってきています。早いもので、今年度も終わりに近づいてきました。4月に比べて食事をする量も増え、体も大きくなり、元気に遊ぶ子どもたちの姿にも頼もしさを感じられるようになりました。年長さんはしっかり、お兄さん、お姉さんになりました。卒園しても給食や色々な食育活動の思い出を胸に、これからも食生活を楽しんでいただければと思います。

バレンタインデー

2月14日はバレンタインデーにちなんだ給食でした。お昼は、えびピラフ・きのこのスープ・スイートコロッケ・人参サラダ・うさぎりんご。おやつは、ハートのクッキーと牛乳でした。



ひなまつり



3月3日はひなまつりです。「桃の節句」と呼ばれ、ひな人形を飾り女の子の健やかな成長と幸せを願う行事です。園でも行事にちなんだ献立を用意しています。

ひなまつりにまつわる食べ物

- ・ひしもち・・・ひしもちの3色にはそれぞれの花の赤・雪の白・新しい芽の緑という春をあらわしており、健やかな子に育てて欲しいといわれています。
- ・ひなあられ・・・桃・緑・黄色・白の4色それぞれ四季をあらわしているといわれ、1年の四季を通じて健康でいられますようにとの願いが込められています。
- ・甘酒・・・もともと、桃が百歳を表す「百歳(ももとせ)」に通じることから、桃の花を酒にひたし「桃花酒(とうかしゅ)」を飲む風習がありました。
- ・はまぐり・・・はまぐりなどの二枚貝は、対の貝殻しか絶対に合わないことから貞操を象徴し、何事にも相性の良い結婚相手と結ばれて、仲睦まじく過ごせるといわれています。

今月の十二節気

【啓蟄】けいちつ:3月6日頃

大地が温まって、冬ごもりから目覚めた虫が、穴をひらいて顔を出す頃。「啓」はひらく、「蟄」は土の中にとじこもっていた虫(蛙や蛇)という意味です。ひと雨ごとに暖かくなり、日差しも春めいて、生き物が再び活動し始めます。

【春分】しゅんぶん:3月21日頃

昼夜の長さがほぼ同じになる日で、この日を境に陽が延びていきます。春分の日には彼岸の中日で前後3日間を春彼岸といい、先祖のお墓参りをする習慣があります。「自然をたたえ、生物をいつくしむ」として国民の祝日になっています。

